

2023年5月30日(火) 19:00~20:45

松川町農村観光交流センターみらい

令和5年度第1回 松川町農業振興会議 議事録

1. 開会・進行

田中課長

2. 自己紹介

3. 役員選出

農業委員会会長 松下敏章氏

JA女性部部长 吉沢良子氏

4. 挨拶

松下敏章会長

吉沢副会長

5. 協議事項

(1) R5事業計画について

①農業従事者・農地面積・遊休農地の推移

②各種補助金について(農業支援・農地整備)

③担い手育成事業について(新規就農者支援・果樹研修制度)

④各種団体支援について(認定農業者・畜産協議会・農技連・労働力確保・若武者・人と自然にやさしい農業連絡会・女性グループ等)

⑤グリーンツーリズムについて

⑥農地の賃貸借・売買事業について

⑦地域計画(人農地プラン)の策定について

質問・意見

農業農村支援センター 木下係長

令和5年度の被害報告は、県の凍霜害の被害額の確定報が6月2日に公表される予定。

長野県農業経営士協会 宮澤理事

補助事業で、凍霜害ではデュラフレームの補助が主だと思うが、今キッチンペーパーで灯油を使ってやるのが1番原始的に使用されている。灯油も補助して欲しい。灯油もキッチンペーパーも汎用性があるものではあるが、補助して欲しい。

事務局 ペール缶は消耗品。鳥獣害の方でも消耗品3万円以上で申請する場合対象として

いるので対応は可能かと思う。灯油に対しては環境に配慮したものを使っただきたい。

松下会長 JAの方で農業用の灯油の補助が出ていたような気がするが、こういったものは対象にならないか。

JA 営農課 坂巻課長

農業用の施設、暖房用のハウスでの暖房用という形でやっているの、この短期にあたっての灯油については対象外。

長野県農業経営士協会 宮澤理事

松本平と長野は -5°C とか -6°C だった。いくら防霜ファンが回ってもダメ。灯油をたけばなんとか助かったということだと思うけど、この辺もかつてそういうことがあった。その時は大凍霜害だった。それを防ぐには灯油をたくしかない。防霜ファンでは防ぎきれず、大被害が予想される。

田中課長 いろいろ検討が必要だとは思いますが、町が補助するというのは、町が推進する、町の政策的にやっということに対して補助するもの。町として一つは環境にやさしいとか、そういう部分がある。個人でやっていただく分にはかまわないですが、そこに対する補助というところまでは今のところ考えていない。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長

燃焼法が一番効果が高く、松本では4月25日に氷点下があって、中信と北信の方、不受精により全滅に近いところがある。過去最大の被害ではないかと松本の生産者は言っている。この時期のマイナスは全て凍ってしまうので、溶けたときに細胞が壊れて不受精で実が落ちてしまう。連休明け実がついてないと、皆大騒ぎ。深刻な被害。よその地区の話というわけではない。私たちの地区ももしあったら、視点を変えて取り組んでいく必要があると思っている。防霜ファンも対応できない。氷点下になったら助長してしまうので止めなくてはいけない、そうすると燃焼しかない。事例ですが茨城県の農園の大きいところでは、工業用のジェットヒーターを焚くという対策をやられている。熱をファンで送るので、台数が少なくても非常に効果的に、効率的に被害を軽減している。そういう事例を参考に、我々も真剣に考えなくてはいけないと今年感じている。機械購入ですと、工業用ジェットヒーターなら1台5~6万はすると思うが、その時期だけなのでレンタルでもいいと思う。若武者のような組織とかグループで、ジェットヒーターでどれくらい効果があるのかデータをとったり、実績や結果を報告する等の取り組みをやってもいいのかなと感じている。もちろん生産者もやりますが、高額な費用になるので、これは対象にならないけど、こういったもので効果があるからこれならどうだ、といった提案を逆にさせてもらったり今後したいと思う。検討をお願いします。

田中課長 農業農村支援センターやJAさん、試験場としっかり話し合いながら、検討したい。

松下会長 やはり燃焼法が1番効果があるとのことで。近くの人と話をしたら、今までになくりんごの出来がいい気がするとのこと。今年は5回火を焚いたということで、や

はり燃焼法が効果があると話の中ででてきた。今の意見を町の方も考慮しながら、検討してもらいたい。

(2) 10月設立予定、農業法人の設立について

質問・意見

農業農村支援センター 木下係長

今までの検討の中で、樹園地管理を切望していたが、無理だろうということで諦めていた。しかしそっちの方もやっていただけるといような内容でとても嬉しい。ただ研修生が、基本は3年目だが、場合によっては2年目から自分の園地もつこともある。販売をすれば就農になってしまうので、その部分は法人が管理していくということだが、販売代金・販売物は法人の収入にするということか。

事務局 3年目は研修生が自分でやるということにできるが、1、2年目に農地を自分で管理していくようになると就農になってしまい、その後の支援が受けられないということになってしまう。そのため今はそのつなぎとして法人が行い、収入も法人のものとする。

農業農村支援センター 木下係長

法人も一緒に管理するということですか。研修生がやっているところに名義的に法人がつくような。

事務局 基本的に研修生がやるが、一緒に、手伝いはする。

松下会長 この辺が一番注目される部分かと思う。

農業委員 北沢会長代理

担当者の、協力農家のあたりはついているか。

事務局 募集をかけたいと思う。どれくらい依頼がくるかもわからないので、だんだんに進めていければと思っている。

農業農村支援センター 木下係長

研修生が管理する園地を法人名義にするが、それ以外で法人が樹園地管理する圃場はありえるのか。

事務局 基本的にはない。テスト圃場みたいなどころの樹園地管理みたいなどころは出てくると思うが、次の人が決まっていないのに法人が管理するというのは難しいと思っている。

松下会長 町内への周知はどのようにすすめていくのか。

事務局 パブリックコメントを8月に実施したいと思っている。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長

この法人で、農地を維持管理していくにあたって、基盤整備出来ている地域と全くできていない、旧の5aや5畝くらいの単位の農地の管理についてだが、できてないところの基盤整備をこの法人では考えているか。効率よく作業をするにはある程度の基盤整備が必要だと思う。そういったのを地図に落とすようにして、そうなるとうと基盤整備が必要な地域が出てくると思う。ある程度集落的に管理できる状態にす

るのか、そこまでやる気があるのか、ないのか。現状維持だったら、5aの田んぼが20枚30枚管理することになって非常に大変。総合的な将来の松川の農業、農村の景観をどう維持するかという方向性が見えないと全く、非効率的なことを始めることになる。そこも含めて総合的に考えていただきたい。

事務局 “事業内容”のところで、大沢地区を考えて圃場整備などもできればということは考えている。人・農地プラン（地域計画）もあわせてだが、地域の皆さんと話をしながらそういったところも進めていければと思っている。

“栽培環境改善に向けた基盤整備の検討”というところで、地域計画でもって担い手の方の見通しがたった農地につきましては、地域振興局の農地整備課と現場を検証する中で、基盤整備ができるという話になれば、進めていければと考えている。

松川ファーマーズクラブ 宮澤会長

管理ということだが、大変難しくてやってみないといろいろな問題が見えてこない。一概に畑といっても立地、地形等条件は様々。皆さんの知恵で、効率のいいような畑に改善して、研究しながらやってもらった方がいい。やっていくと、現場ではいろいろと問題がでてくるから、現場でこういう事例があつてというのを見させてもらってこういった会議をやった方が、具体性が出て意見が出しやすいと思うので機会があればお願いしたい。

(3) 松川町農業基本計画の策定について

質問・意見 なし

(4) 有機農業産地づくり支援事業について

質問・意見

長野県農業経営士協会 宮澤理事

たびたび講演会、取り組みに参加しているが、とてもいいことではないかと思う。残念なのが松川町の主たる産業とあまり結びついていない。果樹産業にとって、有機農業はどういった効果があつて発展するのか関連付けられるような取組であつてほしい。学校給食に有機野菜を届けるのは結構なことだが、これを松川町の主たる果樹産業にどうやったら応用して、日本に発信していくか。以前、松川町は有機野菜を給食に届けるところがNHKに出たりしたが、果樹農家が頑張ってるんだというところまで発展させてほしい。補助金の関係でそこまで入らないのかもしれないが、もう少し有機の視点を主たる産業の方へ向けて欲しい。

事務局 土壌診断等でそういったところに入っていきたいとは思っている。なかなか有機で果物をやりましようとは言えないので、土作りからとかそういったところで進めていきたいとは思っている。

長野県農業経営士協会 宮澤理事

有機とは無農薬で、化学肥料減で、確かにJAS有機はそういった決まりがあつて、使っている農薬がないわけじゃないけど、そういうところに拘るのじゃなくて、有

機はリサイクルだったり環境にやさしいだったり、そういった考え方を先生方は言っているが、果樹園にとって無農薬は難しい。有機の考え方を、主たる産業に応用して、出来たらそれを日本中に発信して、それがエシカル消費、優秀な果物、おいしい果物、環境にやさしい果物にもっていくということ。

事務局 徐々に広めていけたらと思っている。

6. 各団体からの活動及び課題・提案事項などの報告

JA 営農課松川支所 坂巻課長

昨年からの肥料高騰で、国の事業で肥料高騰対策ということで取り組みされている。先日説明会を開いたが今申請についての受付を、みらいと農協の営農課の方で行っている。昨年の6月から今年の5月までの肥料購入の価格上昇分に対しての国からの補助、県からの補助がある。面積を大きくやっている方については100万単位の肥料を購入している方もいるので、申請の相談をしていただければと思う。ただ単純に申請してお金をもらえる仕組みではない。昨年まで使っていた化学肥料の使用量を減らすという形で、その分堆肥を入れるだとか、土壌診断による施肥設計だとかメニューがいくつかあるのでその中から2つ、今年度と来年度実施する。実施報告も、国へ報告するという作業があるので、事務作業で面倒なところがあるが、そういった支援金があるので紹介させていただいた。

農業農村支援センター 木下係長

今管内で、日本なし産地再生プロジェクトが今年から本格的に始動する。これから5年間のうちに改植・新植に対する苗木の調査を実施した。梨の苗木は今基本的でないため、そのことについて今度種苗協会の総会が6月にあるため、この産地に苗木の確保をお願いしながら仕組みを作っていく。産地プロジェクトの中の大きい目標で、ミニ団地をいくつか作ればということ考えている。基盤整備事業で担い手の集約率が高ければ、樹園地負担が少なくすむという補助事業もあるので、活用しながら、ジョイントだとか生産性の高い園地に整備してそこに入ってもらおうと考えている。管内何カ所か選定をして整備していきたいと取り組み始めており、ぜひ松川の中でそういった場所ができればと思うので協力をお願いしたい。

松下会長 友人のからは、南水の不受精が何年も続いているという中で、通常の年であれば1週間から10日人を頼んで摘果するが、今年は1日半で終わってしまった。このようなことが続けば、南水はやっていられない、切るかもしれないという話も合った。今の話とは逆行している。

6月に入ってくるわけで、松川町のメインの一つのさくらんぼの時期になってくるが、今年状況をお聞かせ願いたい。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長

松川管内のさくらんぼ園、現在22戸あるが、昨年は受粉環境が非常に悪く、どの農園も収入としては少なかった。今年は開花時期の条件が比較的良好で、どこもかなりすぎくらい、なっている。観光としてお客さんを入れるにはたくさん食べてもら

えるのでは。全国的にみると畑の立地条件により、低温になってしまったところもある。観光については、コロナでバス会社もバスの台数を減らしているのので、今までのような団体の動きは少ないが、個人の動きはあるように見える。

くだもの観光協会 代田副会長

バス会社の動きでは、コロナの影響でだいぶ台数が限られている。バス関係は土日中心になってくるので、問題はマイカーのお客さんもだいぶ増えてくるのでその辺をうまくクリアできるかどうか、今年の課題になってくる。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長

もう1点、大きい食事処がないのが実情。ここへ来る前に岐阜県内で食事する、帰りがけに寄るとか、団体にしてみると大変な苦労があるのかなど。清流苑の今後の受け入れ方針の中に、お客さんを取り込めるような、なんか機会があったら提案いただければ。

長野県農業士協会 矢沢理事

若武者の会長として1つお願いがある。今年も若武者マルシェを開催したいと考えている。今年3回目を迎え、過去は若武者の認知度の拡大、地域貢献が目的だった。今年3回目は、まだコロナの影響で、町内イベントが短縮、自粛している。町から補助金をもらっている団体でもあるので、地域の子どもたちに還元できるように開催を目指している。忙しい時期の開催であり、この会議のメンバーをみても、若武者会員の家族が多くいるが、その際はぜひ協力をお願いしたい。また他団体の皆さんにもお手伝い、協力を依頼することもあるかと思うのでよろしくをお願いしたい。